おひさま保育園　自己評価表

２０２４年度

	今年度の活動	評価・反省　課題
施設管理	施設の老朽化による改修工事を計画的に行っています。防犯安全対策として園内のビデオカメラの増設、および更新工事を行いました。また、順次実施している床暖房（フローリング）の改修は、未完了だった１歳児保育室と事務所の工事を終え、一区切りつくことができました。屋上の倉庫内に書類棚を設置し、運営規程に基づいた書類の整理、管理を行うことができました。	床暖房の改修工事を全て終えました（故障している保育室）。子ども達や職員にとって快適に過ごすことができる環境を実現することができました。今後も助成金や補助金を活用し、計画的に施設修繕に努めていきます。
人事管理	キャリアアップ研修は対象の職員が必要分野の取得に向けて受講をすすめています。職員がキャリアパスを描き、責任や役割を自覚することにつながっています。また、定期的に自己評価（ふり返りの面談）を行い、職員一人ひとりが課題や目標を明確にできることを大切にしてきました。常勤職員が、子育て支援員の資格を取得することができました。	キャリアアップ研修は、対象職員を把握し、条件の達成に向けて早期に取得できるよう計画します。職務分掌として、責任や役割を新たに設け、やりがいを実感できるように組織づくりを行います。
保護者対応	全国保育団体合同研究集会（熊本）で、保護者会役員（卒園児も含めて）の３名が、全大会の保育・子育てフォーラムにて「保護者会の活動」について報告しました。保護者と共に創ってきた保育内容や保護者会活動について、改めて確認する機会になりました。衛生管理と健康把握を両立させ、オムツの自園処理も開始し、保護者の負担軽減につながりました。	全国集会の報告を通して、保護者会や保育園にとっても喜びが大きく、励みにもなりました。時代の流れの中で、保護者の環境や背景は変化していきますが、相互理解を大切にし、関係を構築していきます。
健康及び安全	「安全計画」に基づく避難訓練と合わせて、内容の見直しを行ってきました。「BCP 計画」については検討を重ね、一年をかけて策定しています。また、今年度も防災の専門家に講演をしていただき、防災意識を高めることができました。誤飲・窒息を防ぐために「安全なお弁当」というおたよりを発行し、懇談会でも注意喚起をおこないました。食事の場面における危機管理を保護者と共有することができました。	計画については、実態をもとに定期的に中身を見直し、「生きた計画」づくりに努めていきます。防災や食事の場面における危機管理は定着に向け、継続的な働きかけを行っていきます。
小学校・地域連携	熊野田公民分館の体育祭に「夕日丘１丁目」チームとして職員が参加し、地域の方とつながりを持つことができたことに加え、見事優勝を果たすことができました。幼保こ小連絡会が定期的に開催され、交流や合同研修を行ってきました。就学する子どもたちの小学校への行先は多岐に渡りますが、児童要録をはじめ、小学校への引き継ぎを丁寧に行うよう努めてきました。	小学校と協働し、接続に向けた２年間（５歳児から小学１年生）のカリキュラム作成は今後の課題になります。また、園行事と小学校の行事が重なることがあるので、校区会議で日程調整ができるように働きかけています。
保育の質の向上	法人（北支部）で「働きやすい職場づくりプロジェクトチーム」を結成し、働きやすい職場づくりに向けた議論やアンケート調査に取り組んできました。職場の課題や今後の展望を主体的に考え合うことは、保育の質の向上につながると思っています。保育の専門分野に対して、専門委員が中心になりながら、実地研修を積み重ねてきました。全国の研究集会（北海道・熊本）で職員が提案をし、保育実践を追求する機会になりました。	働きやすい職場は保育の質の向上と連動していると考えています。引き続き、職員が主体となって職場づくりができるように関わっていきます。研究集会で積極的に発表をし、客観的な意見を通して自園の保育を追求していきます。
地域との関わり	市の実施する「マイ子育て広場」に参画し、毎週の園庭開放、月に一度の親子活動や育児相談、年に一度の子育て講演会を行いました。地域担当として、園に在籍するスマイルサポーターがその役割を担っています。年間で延べ８５組の参加者があり、地域の子育て支援の場として貢献することができました。	『マイ子育てひろば』は、人のつながりをつくり、子育てを学ぶ場になっています。また、園を知る機会になり、入所につながるケースもあります。地域の拠点となるように、引き続き内容充実に努めます。
その他	法人（北支部）のホームページを更新しました。スマホ対応や採用情報の見える化、個人情報保護強化等の内容充実を図ることができました。	ホームページの機能を使いこなせるように研修を行っていきます。システム化に向け、環境を整備していきます。

２０２４年3月記載